

報告



寿都町の「ミズナラ巨木と月越山脈の ブナ林」見学会から・何が見えたか？

技術士事務所 森林航測研究
技術士（森林部門） 板垣 恒 夫

1. はじめに

地域産業研究会の平成20年度標記見学会を4月22日に実施することができた。計画では堅雪を利用した「見学会」でしたが、例年になく雪解けが早く、今回は「笹藪を掻き分け掻き分け」の見学会でした。

なぜ、「ミズナラ巨木とブナ林」なのか。巨木の残る条件として、一つは、林業の見地から残されたもので、たとえば「暴れ木」を考えるとよい。もう一つは、急傾斜地と言った地形的条件であり、伐採に危険が伴う場合や伐採により林地崩壊などを引き起こす恐れのある場合である。寿都の「大和の沢ブナ林」は北限ブナ林として確認され、これは急傾斜地のため伐採を逃れたものと考えられる。それぞれ、その貴重性が学会などで報告されるようになってきた。一方、寿都の森林が寿都湾を潤す源であることに町民が気づき始め、ミズナラ巨木や北限ブナ林が森林再生の「シンボリック的存在」になってきたことである。

このような経緯のなかでおこなわれた見学会の報告と、その周辺事情を記してみたい。

2. 見学会次第

(1) 参加者への案内：2006年（平成18年）の8月に幹周6m89cmもある北海道一大きなミズナラが寿都町にあることがわかりました。また、最北限のブナ林が弁慶岬付近の大和の沢（急傾斜地：40度）で確認されました。今回は、ミズナラ巨木とその近くの緩傾斜地にあるブナ林を見学することにしました。それから、最も低標高（7～13m）に立地するブナが「湯別の湯」北側にありますので、お風呂に

入る前にご覧になって下さい。

寿都町には、任意団体「Club 風の学校（代表：蛭沢隆彦氏）」がある。寿都湾の豊かな海の恵みの基となる、森を育てるための森林保全活動や環境維持活動を民・官・学の協同で行なおうとする団体で、昨年から活動をはじめました。寿都町の活性化が期待される。今回の見学会がこの活動の一環になれば幸いである。ご協力頂いた「後志森林管理署」「寿都町」に感謝する。

(2) 参加人数：参加者は技術士会北海道支部、北海道大学、寿都町、北海道森林管理局、後志森林管理署、黒松内町、朝日新聞社、その他、総勢33名でした。技術士会からは、活性化分科会座長の柴田登、小野孝、板垣恒夫、油津雄夫の4名、北海道大学からは、講師をして頂いた地球環境科学研究所の春木雅寛准教授、寿都町からは、片岡春雄町長、瓜生勉議会議員、Club 風の学校 代表蛭沢隆彦氏他13名、北海道森林管理局からは、足立康成技術係長他2名、後志森林管理署からは、ご案内と講師をしていただいた松本誠首席森林官他2名、黒松内町からは、黒松内岳ブナ再生実行委員会会長の新川幸夫氏他2名、その他の方の中には、巨樹・巨木の会北海道担当の西村雅樹氏、巨樹見学に岩見沢市から篠原安氏が駆けつけました。朝日新聞の旭川支局長の深沢博氏も参加され、5月22日の朝刊に「北限のブナ林を歩く」と題して記事にされた。北海道後志森づくりセンターから3名の出席が予定されていましたが、仕事の都合で欠席しました。

(3) 見学コース：雪解けが早く、雪上での歩行ができないことから、以下の順序で見学することにしました。①「湯別の湯」駐車場集合・見学会コース変更の

説明等（10：30）②月越峠・展望地から「ミズナラ巨木遠望」・巨木説明（松本首席森林官）・月越ブナ林の概況説明（春木北大準教授）③昼食・懇談（湯別の湯・風車前公園）④「湯別の湯」低標高ブナ見学（説明：春木北大準教授）⑤丸山ブナ林見学・ササ藪漕ぎ（説明：松本首席森林官）⑥「法人の森」見学（説明：蛭沢隆彦氏・春木北大準教授）⑦「湯別の湯」で解散（15：30）

3. 見学内容

(1) ミズナラ巨木

寿都町樽岸のミズナラ巨木は、2006年（平成18年）春に後志森林管理署・黒松内森林事務所の松本誠首席森林官によって確認された。場所は、寿都町樽岸国有林3053林班に位置し、道道523号線を黒松内から島牧へ向かう途中の国有林内である。大きさは、幹周6.89m、高さ15mである。付近はダケカンバ（樹高19–24m）、ナナカマド、エゾイタヤ、ヒロハノキハダ、コシアブラ、シナノキ、アカイタヤなどが混生しており、林床は稈高240–310cmのナガバネマガリダケが優占している。ちなみに、道内ミズナラ巨木第2位は、中川郡池田町の、幹周6.78m、高さ17mである。ミズナラの巨木にかかわる最近の情報ですが、この3月22日には、寿都小学校、忍路小学校の2・3年生36名の参加による見学会がおこなわれた。「ミズナラの巨木に触れて感じて、大自然の中で、走って笑って、最高のひと時」だったそうです。また、3月17日、北海道で一番太いミズナラ巨木の子孫を育てようと林木育種センターの方々の協力により枝の採取を行ないました。育種場で大事に育てられ2～3年後に里帰りするそうです。

(2) 月越ブナ林の概況

月越峠ミズナラ巨木付近のブナ林は尾根から沢に向かって北向き、傾斜約20度の斜面に位置する。尾根通りはダケカンバが多かったとみられるが、周辺の樹木の樹齢からみて40年くらい前に風倒被害を受け、尾根上部とさらに反対側の沢にかけては整理伐採後にトドマツを植栽したものと推測される。ブナ林分は尾根の下方まで続いており面積約2haで、



写真－1 ミズナラ巨木（2008.4.13 松本誠撮影）

ブナの最大胸高直径は117cm、以下60–70cmで、樹高は最大で26m、以下20–24mと続く。

観察される限りでは月越峠の付近の天然生林は、主尾根上部に近づくとブナが少なく、ダケカンバが多くみられるようになり、月越山脈は全体として主尾根とこれに続く支尾根上部は、中標高域に至るまで同様にダケカンバが優占しているのが特徴的である。各尾根付近におけるブナ林の植生の構成は比較的単純といえる。林床の優占種は尾根上および尾根斜面でナガバネマガリダケが、また沢付近でクマイザサが優占している。月越山脈上部域は、温帯性樹種であるミズナラ、シナノキ、カエデ類と冷温帯性樹種の代表格のブナが混生し、亜高山帯的要素のダケカンバも融合している特色ある地域といえよう。（平成19年度 寿都町森林資源調査報告から抜粋）



写真－2 残雪が残る月越峠付近のミズナラ巨木付近のブナ林（2007.4.28）

(3) 丸山ブナ林

見学先の丸山ブナ林は道道寿都黒松内線の西側山地にある。正式には寿都町湯別町丸山の国有林 517 林班「ぬ小班」の北向き緩斜面である。目指す所は、林道から 200 m ていど奥にあり、ここでは「ササ藪漕ぎ」でブナ林に行き着いた。ブナ林規模は月越ブナ林とほぼ同じと思われる。この付近は熊出没が多く、林野関係以外は余り人の近づかない場所のようである。かつては、歌オブナ林のような立派なブナ林があったと言われる。

同じ丸山国有林には、「精二郎ブナ」と「イタヤの亀ちゃん」と命名の大木があり、前者は幹周 3.554 m、高さ 21 m、後者は 4.153 m、高さ 21.5 m である。

(4) 低標高ブナ

「湯別の湯」の男湯から注意して外を眺めると、数本のブナのまとまりが数カ所にわたって生立しているのを見つけることができる。東北地方の温泉にでも行けばこのような景観を味わうことができるかも知れない。しかも、北海道で最低標高（7～13 m）に位置しているブナかも知れない（調査中）。寿都町を訪れたときはぜひ「湯別の湯」でブナ景観を満喫して下さい。

(5) 法人の森

「法人の森」は後志森林管理署黒松内森林事務所樽岸国有林の第 3062 班の標高 130 m 付近にあり、面積約 14.4 ha である。1998 年（平成 10 年）1 月に函館営林支局（当時）と緑のオーナー制度に基づく法人としての（寿都町の）寿都砕石（街）との間で契約が

なされ、町民などへ向けた様々な社会貢献活動がなされている。法人としての契約林であることから、寿都町の「法人の森」と呼称される。場所は国道 229 号を寿都町本町から樽岸に向かって車で走ると、樽岸市街地から湯別側に少し進んだ山側に「法人の森」の看板がある。ここから舗装道路を上がっていくが、民家がとぎれるところから未舗装の林道となる。途中水源地への分岐があるが右に曲がって山道を進み、同じような標高の所を回り込むように 2 km 程度進むと左手に待避所とともに「法人の森」の休憩所、看板が見えてくる。

「法人の森」は大きく分けて、林内車道沿いの休憩所から斜面上部を見て右手奥の沢沿い急斜面上に(1)ブナ優占群落でこれにミズナラ、ホオノキなどを交え、林床はオオカメノキが多くみられる部分と、(2)正面から左手斜面上を含めてダケカンバが上層にやや多く、これにミズナラ、ハリギリ、ナナカマド、ケヤマハンノキなどを交えるが、2 m 以下の草本層もツタウルシが最も多く、オオカメノキがこれに次ぐ種々の広葉樹混生部に分けられる。なお、休憩所から最も遠い、斜面最上部の背後は林床にササが密な若いダケカンバ優占林がある。

（平成 19 年度 寿都町森林資源調査報告から抜粋）

4. おわりに

今から約 50 年前に、館脇は北海道におけるブナ林分としての最北限は黒松内低地帯を北へ少し越えた、蘭越町の「ツバメの沢」であるが、単木的な最北限は黒松内低地帯を越えない南側の寿都町南東部の国有林内にある大和の沢であると記述しており、ここでは「ブナは先枯れした樹高 6 m 内外、胸高直径 6～10 cm のものを数株見たに過ぎず…」と述べている。春木、松本らは 2007 年（平成 19 年）春、この 50 年ぶりの状況を知ろうと考え踏査した結果、現在の大和の沢ブナ林は、最大胸高直径 30～40 cm、樹高約 13～23 m のブナが散在しており、付近のブナを含めておおよそ 40 本余のブナが散在する稚樹と共に小団林を形成していることがわかった。

見学会で本当に見て貰いたい寿都町の自然は「大和の沢ブナ林」であった。道路のない沢登りと、40



写真－3 丸山ブナ林・517 林班「ぬ小班」
(2008.4.22)

度の急傾斜地を案内するには危険過ぎるのである。大事な自然はそっとしておくのが良いのかも知れません。学術的調査として入り、成果は研究発表や資源調査報告として公表したい。

見学会は、温暖化現象？でもないが、雪解けが早まったこともあり「予定変更」対応から大変な一日であった。北海道森林管理局後志森林管理署からは快く森林見学を許可して頂き、また、黒松内森林事務所の松本誠首席森林官、寿都町 Club 風の学校代表蛭沢隆彦氏には見学会企画時点から大変お世話になりました。寿都町役場からは町長さん始め多くの方が参加してくださり、湯別の湯駐車場借用、お茶の差し入れなどのご配慮がありました。

北海道大学地球環境科学研究院の春木雅寛先生には、全般にわたっての説明がありました。これらの方々に心より感謝申し上げます。札幌市、岩見沢市、旭川市など遠方からの参加本当に御苦勞様でした。黒松内から参加の皆さんには「同じブナの共通認識」から激励されました。

見学会は短い時間帯でしたので満足の行くものでなかったかも知れません。ほんの少しでも「寿都町の自然」に関心を持って頂ければ幸いである。この

報告が寿都町の活性化に繋ることを祈って。

〔文献と情報源〕

- 1：寿都町樽岸の国有林内で確認された大ミズナラ。松井哲哉他 北方林業 2007 VOL.59 No.2
- 2：風と森と海のまちづくり 寿都町「Club 風の学校」
<http://www9.plala.or.jp/club-kazenogakko/>
- 3：黒松内におけるブナ及びイタヤカエデの巨木合同調査会報告。松井哲哉ほか 北方林業 2008 VOL.60 No.3
- 4：北限地帯ブナ林の植生。北日本森林植生図譜(Ⅳ)。館脇操(編著)，函館営林局 1948
- 5：北限地帯寿都町管内のブナ林と土壤環境について。春木雅寛・松本誠ほか 日本森林学会北海道支部論文集 56 2008
- 6：北限域寿都町管内のブナ林の林分構造と土壤の性質。春木雅寛・板垣恒夫ほか 第119回日本森林学会大会学術講演集 2008
- 7：空中写真による寿都町樽岸地域の森林概況について 板垣恒夫・蛭沢隆彦 日本森林学会北海道支部論文集 55 2007